早稲田大学博士論文(概要)
2004 学位記 3904 文科省報告 甲/乙 1977

博士(人間科学)学位論文　概要書

生理的緊張パターンからとらえた
催眠の意識状態の特性に関する研究

The study of the features of the hypnotic states of consciousness
from a viewpoint of a physiological tension pattern.

2005年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科
山極 和佳
Yamagiwa, Waka

研究指導教員　門前 進 教授

本研究の目的は、覚醒とは顕著に異なる意識状態を用いて、生理的緊張の次元における意識状態の違いが与える心理的特徴を検討することであった。覚醒とは顕著に異なる意識状態として催眠の意識状態を形成し、意識状態の違いが与える心理的特徴として感情現象を取り上げた。

第１章では、意識状態の定義と、催眠の意識状態の特性に関する研究の概観を行った。意識状態に関する研究は、意識状態の特性を主観、行動、生理のどの側面から捉えるかにより大別される。先行研究を概観した結果、複数の側面を同一研究内で検討することは、催眠の意識状態の特性をより多面的に捉えることを可能にすることが示唆された。

第２章では、感情の喚起を説明する認知的評価理論について述べた。認知的評価理論とは、感情反応は先行刺激に対する認知的な評価によって規定されるとする理論である。認知的評価理論に関しては、特定の感情反応を規定する認知的評価の次元を抽出するための検討が行われてきている。

第３章では、第１章と第２章をふまえて、催眠の意識状態の特性を捉えるための研究に関する次の４点の問題点について論じた。
(1)意識状態の違いを設定するために催眠の意識状態を形成する。なぜならば、催眠の意識状態は、覚醒との違いが顕著であり、実験的操作による形成が可能であるからである。
(2)(1)の方法で設定した意識状態の違いは、生理的緊張の次元から検討する。先行研究では、生理的緊張の次元における催眠の意識状態の特徴として矛盾した結果が示されている。この矛盾には、催眠の意識状態形成に用いられた操作方法の違いという点、及び、生理的緊張を量的分析方法のみで捉えているという点が関係すると考えられる。
(3)(2)の意識状態の違いが与える心理的特徴としては感情現象を取り上げる。その際、感情現象は、刺激と反応との関係だけでなく、その間に介在する認知も取り上げて、先行刺激、認知的評価、感情反応の一連の感情喚起過程として扱う。
(4)(3)における認知的評価の検討には、実験に即して認知的評価の内容を操作した課題を先行刺激として与えるという方法を用いる。認知的評価の内容としては課題達成要求を取り上げる。

第４章では、第３章での問題提起を受けて、本研究の目的と意義、さらに本研究の構成を述べた。

第５章では、第３章の(2)(3)の問題意識に対応させ、生理的緊張パターン及び感情反応過程における催眠の意識状態の特性を検討した。
生理的緊張パターンについては、催眠の典型的な３つの暗示及びリラクセー

ション教示を用いて意識状態を形成し、顔面表情筋活動を指標として比較を行った。その結果、実験で形成した意識状態はそれぞれ異なる生理的緊張パターンを示すことが明らかとなった。違いとして、イメージ暗示、リラックス暗示によって生じる催眠とリラクセーション教示による意識状態は、弛緩的特性のみを示すという結果が得られた。これに対して、運動暗示によって生じる催眠の意識状態は、弛緩と緊張とを併せ持った特性を示すという結果が得られた。

感情反応過程については、覚醒の意識状態では感情喚起操作に対して変化が見出されたことに対して、運動暗示によって生じる催眠の意識状態では変化が見出されなかった。これらの結果は、運動暗示によって生じる催眠の、外的刺激に対する応答性における意識状態の特徴を示すのではないかと考察された。

第６章では、第３章の(4)の問題意識に対応させ、先行刺激と感情反応との間に介在する認知的評価過程としての課題達成要求における、催眠の意識状態の特性について検討した。その結果、運動暗示によって生じる催眠の意識状態は、覚醒の意識状態と比べて、意欲的、義務的達成要求が低いことが明らかとなった。また、リラクセーション教示による意識状態との比較からは、意欲的達成要求と自己効力感といった認知的評価の、課題遂行前後の変化が小さいことが明らかとなり、課題遂行という内的刺激に対する応答性が減少することが示唆された。

第７章では、第５章、第６章の実験的研究をふまえて、本研究の目的に即して結果をまとめ、総括的な考察を行った。

生理的緊張の次元における意識状態の違いが与える心理的特徴という本研究の目的に即して結果をまとめると、生理的に緊張的特性と弛緩的特性とを併せ持った意識状態は、感情喚起過程において心理的緊張が低下し、刺激に対する応答性が減少するという特性を示すことが明らかとなった。これに対して、生理的に弛緩的特性のみを持つ意識状態は、感情喚起過程において心理的緊張は低下するが、刺激に対する応答性は保持されるという特性を示すことが明らかとなった。

これら意識状態間の、生理的緊張と感情喚起過程とのそれぞれにおける共通点と相違点に関する結果は、生理的側面と心理的側面との対応関係を示唆するのではないかと考察された。